語り継がれるまちの記憶

江戸のころより宿場町として発展した新宿には多くの文化財が残り、さまざまな伝説・伝承が語り継がれています。新宿の歴史に触れることができる伝説・伝承をたどりながら、区内を散策してみませんか。

詳しくは、新宿文化観光案内サイト「温故知しん！じゅく散歩」(右二次元コード)でもご案内しています。

問区政情報課広報係☎(5273)4064

※資料所蔵…新宿歴史博物館

ご存知「東海道四谷怪談」の主人公

お岩さんゆかりの社寺

歌舞伎や講談で知られる「東海道四谷怪談」は、夫に毒殺されたお岩が夫を恨んで幽霊として現れる怪談話です。この「お岩さん」は実在し、本来の夫婦仲は円満だったと伝えられています。

1 於岩稲荷田宮神社（左門町17）

もともとは、御先手組同心田宮家邸内にあった社で、初代又左衛門の娘がお岩。お岩が婿養子の伊右衛門とともに家勢を再興したことから、江戸の人々から信仰を集めたといわれています。明治時代に火事で焼失後、現在の中央区へ移転しましたが、昭和27年にこの地にも社が再建されました。

2 於岩稲荷 陽運寺（左門町18）

境内にある桑山木の下にお岩の祠があったという伝承が起源のお寺。本堂にはお岩の立像が祀られ、境内にはお岩様ゆかりの井戸があり、開運や縁切り、縁結びなどに特にご利益があるとされています。

イベント情報 **四谷怪談二百年**

今年は、鶴屋南北作「東海道四谷怪談」の初演から200年目にあたります。この記念の年に、四谷怪談をテーマにした講談会と四谷怪談関連の錦絵の展示を行います(展示の観覧は午後5時30分まで)。申し込み方法等詳しくは、新宿歴史博物館ホームページ(右下二次元コード。HP https://www.regasu-shinjuku.or.jp/rekihaku/)をご覧ください。

時 8月16日㈯午後6時から(2時間程度)

出演 神田こなぎ「誉の高松」、宝井一凜「四谷怪談 お岩様誕生」、神田あおい「四谷怪談」

申込期限 8月2日㈯まで

場問 新宿歴史博物館(四谷三栄町12-16)

☎(3359)2131

(※)

早替り お岩の霊、豊原国周、明治17年(1884)

目玉を狙う盗賊に不思議な光を発した

江戸最大の閻魔像

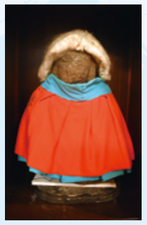
3 太宗寺（新宿2-9-2）

江戸時代、この閻魔像の目玉を盗もうとした盗賊が、目玉から発する不思議な光で気絶し捕らえられたという話が広まり、錦絵にも摺られました。太宗寺には、閻魔大王に仕える奪衣婆の像(左下写真)、自分の痛む部分に塩をかけて祈願するとご利益があるという塩まみれの塩かけ地蔵(右写真)もあります。

太田道灌を手招きして救った黒猫

招き猫伝説

5 自性院（西落合1-11-23）



猫地蔵

猫面地蔵

江古田・沼袋原の戦いで道に迷った武将・太田道灌を、一匹の黒猫が自性院に導き窮地を救ったという伝説が残ります。現在は「ねこ寺」として親しまれ、秘仏「猫地蔵」(右写真)が安置され、毎年2月3日に開帳されているほか、境内には招き猫の石像(左写真)も。

画像提供：国立国会図書館(ウエブサイトから)

亡者の着物をはぎとる三途の川の渡し守

奪衣婆の霊験

4 正受院（新宿2-15-20）

(※)

正受院奪衣婆、歌川国芳、嘉永2年(1849)

“綿のおばば”こと正受院の奪衣婆は、咳止めの霊験が評判でお礼参りに綿が奉納されました。幕末には、綿のおばばが「強盗を捕まえた」「綿に引火した火を消した」という話が広まり、おおいに信仰を集めたとか。綿をかぶった奪衣婆像(右写真)は閉じられた格子戸越しの拝観となります。

災いをもたらした刀傷が今も残る

鬼の手洗石

6 稲荷鬼王神社（歌舞伎町2-17-5）

鬼が水鉢をかつぐ奇妙な手洗石は、もとはとある武士の家にあったもの。庭で水浴びをする不審な音がしたため、主人が水浴びをしているものを切りつけました。すると翌朝、この手洗石に刀傷が付いていました。その後不幸が続いたため、手洗石は稲荷鬼王神社に奉納されました。

女性をさらうクモの化け物が逃げ込んだ

土蜘蛛の井戸

7 クモ切り坂(禿坂)（富久町）

歌舞伎にも登場する渡辺綱が、女性をさらうという土蜘蛛の化け物をこの坂で待ち伏せ、切りつけたという伝説が残ります。土蜘蛛は坂近くの自証院境内で息絶え、その場所から井戸が湧き出ましたが、その水は毒だったため「クモの井戸」と名づけて飲まないようにしたといいます。

また、クモ切り坂は、付近の禿(おかっぱ頭)の童子が河童に見えたことから禿坂という別名でも親しまれています。

夜な夜な化けて通行人を驚かした

地蔵に化けた狸

8 地蔵坂（袋町）

安産の御利益で知られた光照寺は参拝者が絶えず、その人の多さに困ったのがこの寺に住むタヌキたち。巣から出られなくなったのです。そこで、地蔵に化けて通行人を驚かす作戦に。これを知った武士が、タヌキをこの坂の上で待ち伏せて退治しようとしましたが、まんまと化かされてしまいました。

実はいたずら好き!?

人を驚かす河童

9 合羽坂（片町）

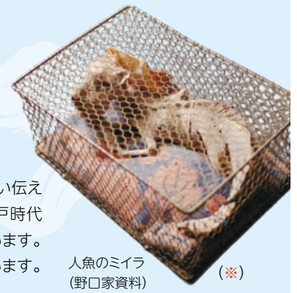
合羽坂下、現在の片町あたりには、その昔、蓮池があり河童が住んでいたといわれています。その河童たちが夜な夜な通行人を驚かせたことが坂の名前の由来に。蓮池は江戸時代に埋め立てられ、御先手組の組屋敷となりました。

食べると不老長寿をもたらすという

人魚のミイラ

10 新宿歴史博物館

(四谷三栄町12-16)



人魚のミイラ(野口家資料)

(※)

人魚の肉は「食べると長寿を得る」という言い伝えから、人魚のミイラは長寿のお守りとして江戸時代後期に輸出用としても作成されていたといいます。実際は、数種類の動物を接合して作られています。下記展覧会で展示します。

イベント情報 **しんじゅく れきし どうぶつえん!**

●新宿歴史博物館所蔵資料展

さまざまな資料を通じ、動物と人との関わり合いの歴史を紹介する企画展示で、人魚のミイラも展示しています。

日 9月21日㈰まで

場問 新宿歴史博物館

▶同館の休館日等はこちら

★三遊亭圓朝旧居跡

花園公園（新宿1-21）

「怪談牡丹灯籠」で知られる近代落語の祖

怪談噺をはじめ多くの落語演目を創作した圓朝は、幽霊画コレクターとしても知られているほか、「怪談乳房榎」という噺には落合(ホタル狩り)や十二社(滝)など、区内の名所等が登場します。明治21年～28年に現在の花園公園があるところに居を構え、園内には旧居跡の記念碑があります。

☆小泉八雲記念公園

(大久保1-7)

「怪談」で知られる明治の文豪

日本各地に伝わる「雪女」や「ろくろ首」等の怪談話の再話を集めた「怪談」で知られ、ラフカディオ・ハーンの名でも親しまれる八雲は、ギリシャのレフカダ島で生まれ、新宿区でその生涯を終えました。最期の地近くの同園は、故郷のギリシャをイメージし、整備されています。